令和6年度自己評価結果

種 別 児童自立支援施設
施設長 名 佐藤 かおる
実施日 令和7年2月1日～2月28日
自己評価分析実施日 令和7年3月12日
自己評価分析会議参加者 園長、副園長、課長、男子寮L、女子寮L、総務L

【自己評価結果（詳細は別紙参照）】

1 良かった点

- ① 児童の権利擁護について、弁護士による児童向けの学習会の実施、プライバシーに配慮した居室環境作り、入園前の見学や面接の実施など、今年度は、児童の権利を護る取り組みを推進し、一定の成果を上げた。
- ② 職員の欠員が続き、人員的に厳しい状況ではあるが、職員会議等で議論を重ね、創意工夫や試行錯誤をしながら、概ね問題なく児童の安全な生活を守ることができた。また、心理職の欠員については、児童相談所に協力を求め、一定のケアが受けられる体制を整えた。

2 課題

- ① 女子寮の当直補助職員が見つからないなど、一部職種の欠員が続いている。ハローワークだけでなく、各方面に積極的な募集活動をしているが、採用に結びつかず、職員の負担に繋がっているため、更に工夫した募集活動を実施していく必要がある。
- ② 外部との交流は、スポーツや文化活動を通じて実施している。一方で、施設の近隣地域との交流は、児童自立支援施設へ入所する児童の特性上、積極的な交流が難しい面があるため、「地域との交流や地域貢献」という項目で評価が低くなっている。今後も、児童自立支援施設としての外部との交流のあり方や方法などを検討していく必要がある。

3 まとめ

今回の自己評価で良い評価を得られた項目については、この評価を維持・向上できるように職員間で共有し、次年度以降の運営に活かしていく。

一方、低評価だった項目については、改善に向けた取り組みを順次進めていく。